

建築教育部門—研究懇談会

防災教育の進化・体系化をめざして —発達段階に応じた教育目標の明確化

[資料あり]

9月12日(火) 9:00～12:30 オンライン 第J室

司会 石川孝重(日本女子大学名誉教授)

副司会 佐藤慶一(専修大学)

記録 小久保彰(国土館大学)

1.主旨説明 平田京子(日本女子大学)

2.主題解説

①発達段階に応じた防災教育マトリクスの概要

長澤夏子(お茶の水女子大学)

②防災教育マトリクスにおける学習内容・目標の進展

飯塚裕介(大東文化大学)

③ルーブリック評価とその指標

伊村則子(武蔵野大学)

④防災教育ルーブリック

島田侑子(千葉大学)

⑤ルーブリックに基づく評価とばらつき

稲垣景子(横浜国立大学)

⑥ルーブリックを用いた実践

古川洋子(日本女子大学)

3.討論 コーディネーター:石川孝重(前掲)

4.まとめ 平田京子(前掲)

自然災害の頻発により、防災教育の必要性は一層高まっている。昨今では保育園・幼稚園から大人に至るまでの各発達段階で防災・減災教育が実施されるようになったが、建築・生活・社会の視座からみると、個人が成人するまでにどのような防災・減災の知識と技術をもつべきか、防災教育の目標はまだ十分に論じられていない。

防災教育は、災害発生時に自らと家族の命を守る「自助」から始まり、共助、公助の内容にふれつつ学習範囲が広がっていく。また、守られる側から守る側に立場が変わっていく中

で、学習内容も高度化することが必要になる。幼稚園の段階から高等学校までの学習指導要領において、防災教育目標と学習内容の定めはあるものの、校種間での進化の考慮が十分でなく、特に学習の深化と体系化がなされていない。そこで、建築学の観点から防災・減災教育の内容の進化・深化と、社会人になるまでの学習の体系化を改めて見つめるきっかけとしたい。

ここでは発達段階全般を俯瞰し、より高度な方向に発展していく教育内容の体系化、到達目標を確認する評価手法について、防災教育WGで検討した結果を解説しながら報告する。世界有数の災害国である日本では、命を守れる市民を育むだけでなく、他者を守る、地域や社会を守る市民自らの育成プログラムの実践が望まれる。それらが幼児から成人まで一貫したコンセプトのもとに行われることを目指して討議を行う。

各主題解説では教育コンテンツの構築と発達段階の関係、教材や教育手法の工夫などの点から作成したマトリクスおよび育てたい目標を明確にして、到達度合いを可視化するルーブリックを用いた評価方法の解説を行い、建築分野からみた防災教育のこれからを描き出す。